

(渡邊久暢 教育研究業績書)

教育研究業績書				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の 名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発行 雑誌又は発表 学会等の名称	概要
(著書) 『学校行事・部活動で 楽しむディベート実践 ガイド』	共著	2001年 7月	学事出版	第2章 学校行事におけるディベート大会の計画・ 運営 校内ディベート大会を企画・運営する〔高校〕 の項を執筆
『ゲストティーチャー と創る授業』	共著	2002年 3月	学事出版	第2部 ゲストティーチャーと創る授業事例集 4 障害者とともにを行うバリアフリー調査の項を執筆
『高校国語 新学習指導要 領をふまえた授業づくり 実践編：資質・能力を育 成する14事例』		2019年 3月	明治書院	第3章選択科目における授業実践事例第2節文学国語 を執筆した。単元「夏目漱石『こころ』を読み論文を 作ろう」を中心に、新教科「文学国語」の単元デザイ ンに関する提案を行った。
『授業研究 ― 実践を変 え、理論を革新する（ワ ードマップ）』	共著	2019年 6月	新曜社	自身が行った単元 「短歌をつくろう 明治と平成の ティーンエイジャー」に基づく章である「Ⅳ 授業研 究の実際【高校編】」の執筆を行った。
『歴史教育「再」入門』	共著	2019年 12月	清水書院	Ⅲ「歴史教育」を見つめる「なぜ歴史を教えるのか なぜ歴史を学ぶのか」（コラム）を執筆した。
『高等学校 教科と探究の 新しい学習評価』	共著	2020年 11月	学事出版	「1・国語科のパフォーマンス課題「実社会につな がる、ことばの学び」―新科目「現代の国語」の単元「CM 企画をプレゼンしよう」を通して―」を執筆した
『教師が学びあう学校づ くり―「若手教師の育て 方」実践事例集―』	共著	2021年 10月	第一法規	第3部 組織で若手を育てる! 実践事例8 教師も学び、育つ学校づくり―学習共同体 への成長― を執筆した。
『高等学校 真正(ほんも の)の学び、授業の深み ―授業の匠たちが提案す るこれからの授業』	共著	2022年 8月	学事出版	「学び続ける国語の力」というタイトルで、特に主体 的に学習に向かう態度を育てることの重要性について、 授業実践に基づき述べた。

『高等学校「探究的な学習」の評価』	共著	2023年 4月	学事出版	第2章実践編Iの2『わがごと』として探究に取り組む」を執筆した。生徒自身が「わがごと」として考えたくなるような本物の課題＝真正の課題の下、本物の学習活動を組織することの重要性を述べた。
『高等学校における「観点別評価」―生徒を育む評価のあり方―』	共著	2023年 8月(印刷中)	学事出版	八田幸恵氏との共著。高等学校における観点別評価の必要性について理論的背景を述べた上で、どのように実践すると良い科について述べた。
(学術論文) 「高校国語科評論文における読解方略指導のあり方―学習者による『ふりかえり』に焦点をあてて―」	単著	2012年 2月	福井大学 教育実践 研究 第36号 pp1-12	評論文単元の構想と実際を粗描し、学習者が記述した「ふりかえり」を跡付けていくことで、「ふりかえり」の多様な機会を組織しその記述のさせ方を変化させることが自立した読者の育成を支えていることを明らかにした。
「読みに関する理解を育む『問い』の構造―『羅生門』を学習材とした授業実践を通して―」	単著	2013年 2月	福井大学 教育実践 研究 第37号 pp19-30	読みに関する「転移可能な理解」を育むためには、読むことそのものに関わる「問い」を追究させ、自己調整的に読みの実践を行う活動等を多く取り入れた上で、実際に方略を用いた読みの実践を経験させることが有効であることを明らかにした。
「探究を導く『問い』を設定する能力の育成―高校国語科現代文『こころ』の授業研究を通して(2)―」	共著 (八田幸恵・渡邊久暢)	2013年 6月	福井大学 教師教育 研究6 pp299-328	「問いに基づく探究のサイクル」を積み重ねつつ、「問い」を探究するとはどういうことか?」〈読むとはどういうことか?〉といった「問い」を探究する。そして、このような「問い」に基いて学習経験を振り返ることによって、「探究観」や「読み観」を自覚化し、自分自身の「探究観」や「読み観」に基づく「よい問い」を設定することができるようになることを明らかにした。
「『アクティブ・ラーニング時代』の高等学校において『目標と指導と評価の一体化』を実現するための課題と展望―目標と活動の関係を問う」	単著	2017年 2月	教育目標・ 評価学会紀 要第27号 pp21-28	「アクティブ・ラーニング時代」の高等学校において「目標と指導と評価の一体化」を実現するための課題を整理し、国語科における自身の実践事例に基づき、それらの課題解決に向けた展望を示した。

<p>「戦略的に読む力」を培う「見とり」のあり方</p>	<p>単著</p>	<p>2018年 3月</p>	<p>全国大学国語教育学会編『国語の授業づくりと評価を考える』</p>	<p>「戦略的に読む力」を培う「見とり」を行う上でのポイントを、① 戦略的な読みを实践させ、ノートに記述させる ② 戦略的に読んだことの「ふりかえり」を記述させる ③ 各自の戦略的な読みや、その「ふりかえり」を相互に交流させる④ 具体的な目標を、生徒に導き出させる の4つとし、上記のような「見とり」を行うことが「戦略的に読む」力を培うことにつながると述べた。</p>
<p>エビデンスにもとづく「探究」の評価に関する研究：若狭高校における取り組み</p>	<p>共著 脇本ら</p>	<p>2019年 3月</p>	<p>日本教育工学会研究報告集</p>	<p>若狭高校が学校独自に取り組んできた教科「探究」での取り組みをもとに、探究学習におけるデータによる評価手法の開発を行った。</p>
<p>探究の授業を対象にしたデータに基づく授業・カリキュラム改善に関する研修の開発</p>	<p>共著 脇本ら</p>	<p>2019年 12月</p>	<p>日本教育工学会研究報告集</p>	<p>探究学習に関する授業を対象としたデータを用いた授業・カリキュラム改善のためのツールと研修の開発と評価を行った。</p>
<p>「なぜ私はこのように解釈したいのか——高次の「読みの理解」を実現する小説単元のデザイン」</p>	<p>単著</p>	<p>2021年 11月</p>	<p>日本文学協会『日本文学』vol70</p>	<p>本稿では、現場の教師に求められる評価リテラシーを明らかにした。目の前の子どもたちの学習成果から学習要求を読み解き、その学習要求に単元・授業の設計をもって応答しようとする、さらに、生徒の学習成果物を組織し公にすることで、育てたい学力に関する公論を組織し、多様な人々の評価への参加を促すことが重要であることを述べた。</p>
<p>(その他 雑誌寄稿) 「国語力の充実で、実りある『総合的な学習の時間』を」</p> <p>「ディベートを使った発表のコツ」</p>	<p>単著</p>	<p>2001年 9月</p> <p>2002年 8月</p>	<p>明治書院「日本語学」2001年10月号</p> <p>学事出版「月刊授業作りネットワーク」2002年9月号</p>	<p>若狭高校定時制における「総合的な学習の時間」の実践記録をもとに、「総合的な学習の時間」における国語科的活動と「国語科の授業」の関係を整理した。</p> <p>プレゼンテーション等の発表場面において、ナンバリング・サインポスティング・ラベリングなどの「ディベートのし合いで用いられる発表様式」を使うことが有効であることを述べた。</p>

「クイズ型発表を質問で検討しよう」	単著	2002年10月	学事出版「月刊授業作りネットワーク」2002年11月号	クイズ型の発表スタイルにおいて、聴衆からの質問を充実させることをねらいとした実践手法を提案した。
「『他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力』を育てる国語科学習指導」	単著	2008年2月	群馬県総合教育センター「ぐんまの教育」2008年第4号	「他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力」を育成するための高校国語科指導のあり方について、若狭高校における実践をもとに述べた。
「『論理的に表現する力』を育てる国語科学習指導」	単著	2008年7月	中等教育資料 2008年8月号	「論理的に表現する力」を育成するための高校国語科指導のあり方について、若狭高校における実践をもとに述べた。
「『授業のつくり方・進め方』めざせ！ 授業のプロ—高等学校国語—」	単著	2012年7月	協同出版「教職課程」2012年9月号	「学習者にどのような力をつけ、その力をどうみとるか」を意識した授業デザインにもとづいて構想する際のポイントを、若狭高校における具体的実践にもとづいて述べた。
「教師も育ち、生徒も育つ協働的实践～若狭高等学校設定科目『基礎研究』の取り組み～」	単著	2013年3月	福井高教祖教育研究会議「生徒とともに」第51号	授業をより良くしていくには、「同僚性の構築」が不可欠であること、そしてその道のは険しいものがあるが、生徒にとっても、教師にとっても新しい人生を築きあげる「充実感」があることを具体的実践にもとづいて述べた。
「国語科における『指導と評価の年間計画』のあり方—高等学校国語総合の授業研究を通して—」	共著	2013年3月	福井県高等学校教育研究会国語部会「国文学」	福井県立若狭高等学校の第一学年(文理探究科・普通科・商業科・情報処理科)対象に行う国語科の科目である「国語総合」で展開される授業実践とその検証を研究した成果にもとづいて、平成二五年度から完全実施される新学習指導要領下における国語総合の「指導と評価の年間計画」モデルを提案した。
「『生きて働く質の高い学力』を培うアクティブ・ラーニング」	単著	2015年11月号	学事出版「月刊 高校教育」2015年11月号	アクティブ・ラーニングの重要性が叫ばれている今、「何のためにアクティブ・ラーニングを行うのか」を問いとし、その形態にとらわれず「静かなアクティブ・ラーニング」も有効であること、さらには「アクティブ・ラーニング型」授業にこそ指導に生きる評価が重要になることを述べた。

「生きて働く質の高い学力」を培う単元デザインのあり方	単著	2016年 3月	福井県立若狭高等学校 研究雑誌第46号	「アクティブ・ラーニング祭」とも揶揄される現状の中、「生きて働く質の高い学力」を培う単元デザインのあり方について、特に目標と指導と評価を一体的に考え、実践することの重要性を説いた。
特集「ALを拓く」		2016年 7月	日本教育新聞 2016年 7月11日号	アクティブ・ラーニングに関する特集記事において、授業実践とインタビューが取り上げられた。
特集「『授業』で社会を生きる力を育む」		2016年 10月	リクルート進学総研「キャリアガイダンス」vol414	アクティブ・ラーニングの一つのあり方についての授業実践とインタビューが取り上げられた。 http://souken.shingakunet.com/career_g/2016/09/vol41320167-6c8d.html
TJCの探究学習から、若狭高校の取り組みをどう改善するか	共著 (水谷友梨 渡邊久暢)	2016年 10月	福井大学教職大学院 ニュースレター90号	シンガポールのテマセックジュニアカレッジ(TJC)を訪問し、探究学習の実際を観察した成果を若狭高校の取り組みの改善にどう活かすかについて、特に「フィールドワークのさらなる充実」や、「発表形態の多様性の担保」などが鍵になることを指摘した。
「生徒、教員、地域がチームとなって取り組む探究学習の在り方とは」		2016年 2月	OECD日本イノベーション教育ネットワーク実践レポート	「OECD 日本イノベーション教育ネットワーク」実践レポート (http://innovativeschools.jp/do-tank/practice-report/#)にインタビュー記事が掲載された。本記事については、文部科学省初等中等教育メールマガジン第297号にも紹介された。
教養に裏打ちされた「アクティブ・ラーナー」を育てるー変化の激しい時代において主体的に生き方の舵を取るためにー	単著	2017年 3月	キハラ株式会社 「LISN」171(春)号	読書による人間形成の重要性に基づき、「個人が社会とかかわり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身に付ける、ものの見方、考え方、価値観の総体」としての「教養」に裏打ちされたアクティブ・ラーナーを育てることの重要性を述べた。
高次のレベルの思考力を育む単元の構想ー現代文B「短歌をつくろう」ー	単著	2017年 3月	福井県高等学校教育研究会国語部会「国文学」	「テキストやテキストを読んだ経験の価値を評価・批評し、新しい意味・知識を創造する力」といった、高次のレベルの思考力を育む単元の構想について、目標の設定、教材の選定、学習活動・評価のあり方を中心に述べた。

教養に裏打ちされた「言語行動主体」を育てる —ことばに対する「見方・考え方」を鍛えていく単元の開発—	単著	2017年 4月	福井県立若狭高等学校 研究雑誌第47号	授業を通して培うべき「生きて働く質の高い学力」とは何か。さらには、そのような学力を培うためには、どのような単元を組織することが有効に働くか。ことばに対する「見方・考え方」を鍛えていく単元の例に基づき検討した。
「大学入試改革・プレテスト踏まえた授業案」 ——国語 初見の文学で 考査、達成度測る——	単著	2018年 6月	日本教育新聞 2018年6月18日10面	単元を構想する際には、生徒にどのような力をつけ、その力をどう評価するかを丁寧に検討した上で、文学単元での具体的事例を紹介した。
「新科目「現代国語」の単元構想に関する研究」	単著	2019年 3月	福井県立若狭高等学校 研究雑誌第49号	新教科「現代の国語」において、高次の国語学力を育むには、どのような単元をデザインすべきか、特に、①どんな力を、②どんな教材・活動で培い、③どう評価するのかについて述べた。
「課題設定能力を育むカリキュラムをデザインする」	単著	2019年 3月	福井県立若狭高等学校 研究雑誌第49号	若狭高校における課題発見・解決学習に関する目標設定・指導・評価等のカリキュラムデザインに関する提案を行った。
「探究」「深い学び」につながる授業改善—若狭高校における組織的な授業改善の取り組み	単著	2020年 4月	学事出版 「月刊 高校教育」 2020年5月号	若狭高校における組織的な授業改善の取り組みについて「若手授業力向上塾」等の内容を紹介した。
直前 新共通テスト 実用文や文学で言語活動の質問われる	単著	2020年 7月	日本教育新聞 2020年7月13日号	新共通テスト対策にもつながる、新学習指導要領をふまえた単元デザインの提案を、コロナ渦におけるICTを活用した授業のあり方を中心に行った。
生徒が生き生きと学ぶ実践（主体的に書く、論理的に書く）	単著	2021年 6月・ 7月	図書文化 「指導と評価」7月号・8月号	書く能力の育成を主眼とする単元デザインのあり方について述べた。論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫して書くことを促す工夫について述べた。
「探究」を評価する——「わがごと」として探究に取り組む	単著	2021年 9月	学事出版 「月刊 高校教育」 2021年10月号	生徒自身が「わがごと」として考えたいくなるような本物の課題＝真正の課題の下、本物の学習活動を組織することが、生きて働く言葉の力を育むためには必要であることを述べた。

<p>(学会発表)</p> <p>『『学びを見取る力』を育てる高校国語科学習指導～CM企画の発表における言葉の工夫を中心に～』</p>	<p>単独発表</p>	<p>2005年 10月</p>	<p>全国大学 国語教育 学会 第109回</p>	<p>「学びを見取る力」を育てるための学習指導のあり方について、①見取りの回数を多くする、②見取りの対照となる素材を段階的に増やす、③見取りを他者と交流する場を設定する、という3つの条件が湯有効に機能することを、実践にもとづいて明らかにした。</p>
<p>「戦略的に読む力」を培う「見とり」のあり方</p>	<p>単独発表</p>	<p>2014年 5月</p>	<p>全国大学 国語教育 学会 第126回</p>	<p>「戦略的に読む力」を培う「見とり」を行う上でのポイントを、① 戦略的な読みを実践させ、ノートに記述させる ② 戦略的に読んだことの「ふりかえり」を記述させる ③ 各自の戦略的な読みや、その「ふりかえり」を相互に交流させる④ 具体的な目標を、生徒に導き出させる の4つとし、上記のような「見とり」を行うことが「戦略的に読む」力を培うことにつながると述べた。</p>
<p>「なぜ『こころ』を教材とするのか」</p>	<p>単独発表</p>	<p>2014年 11月</p>	<p>日本文学協 会第69回 大会</p>	<p>ラウンドテーブル「教室の中の文学——夏目漱石の『こころ』をどう読むか」において、「なぜ『こころ』を教材とするのか」、その価値とそれを活かした授業のあり方を述べた。</p>
<p>「アクティブ・ラーニング時代の高等学校における『指導と評価の一体化』の可能性と課題」——目標と活動の関係を問う</p>	<p>単独発表</p>	<p>2016年 11月</p>	<p>教育目標・ 評価学会</p>	<p>【課題研究1】「目標・評価の視点から見たアクティブ・ラーニングの検討」に招聘され、登壇した。</p> <p>「目標の精緻化は進んでいるが、豊かな学習活動は目標から直線的に導かれるものではない。」「授業者は、教材選定・発問設定において、「ひらめき」や「直観」に基づき学習活動を構想している。授業者は、このような「ひらめき」や「直観」をどこから得ているのか。」という問題意識の下、「高次の学力を育む豊かな学習活動は、どのようにすれば構想できるのか。」「その構想方法は、どこまで伝達可能・共有可能なものになるのか。」の2つを示した。本発表については、共に登壇した京都大学 松下佳代氏より、「教師の授業づくり（学習活動の構想）の観点」から現状のアクティブ・ラーニングについて批判が行われているという指摘を頂いた。</p>

<p>「教養に裏打ちされた言語行動主体を育てる ―変化の激しい時代において主体的に生き方の舵をとるために―」</p>	<p>単独 発表</p>	<p>2017 年 3 月</p>	<p>電子情報通 信学会総合 大会</p>	<p>公開シンポジウム「教育改革を推進するための高大連携」に招聘され、登壇した。 「コンテンツベースからコンピテンスベースへ」のかけ声の下、教科内容よりも教科横断的な汎用的スキルを重視する動きも見られるが、各教科学習の充実を通して知識や技能をベースとした教養を育むことが実は重要であることを、国語科の具体的な実践を通して述べた。</p>
<p>「課題研究と教科学習における評価のありかについて」</p>	<p>単独 発表</p>	<p>2021 年 11 月</p>	<p>第 32 回教 育目標・評 価学会</p>	<p>課題研究 I 『学習評価改革の課題と展望——教科の評価と総合学習の評価の関係を問う』に発表者として指定され、教科においても課題研究と同様の評価を行うことの重要性を実践に基づき述べた。(参加者 50 名)</p>
<p>『高次の学力』を育む指導と評価」</p>	<p>単独 発表</p>	<p>2022 年 1 月</p>	<p>日本国語教 育学会大学 部会</p>	<p>日本国語教育学会大学部会第一回研究会に招聘され、現代文の実践に基づき、批判的思考力・メタ認知の力などの高次の学力を育むための単元デザインのあり方について、オンラインで講演した(参加者 100 名)</p>
<p>(その他 口頭発表)</p>	<p>以下 全 て 単 独 発 表</p>	<p>2005 年 11 月</p>	<p>チャレンジ 精神を育む 教育プログ ラムとは</p>	<p>生きて働く国語学力を育む国語科教育とは?そんな疑問を追求することから取り組み始めたアントレプレナー教育。生徒にとって身近なコンビニエンスストアをテーマにしたプロジェクト型学習の実践例を報告した。</p>
<p>「『言葉の学び』を自己評価する力を育てる高校国語科学習指導」</p>		<p>2007 年 2 月</p>	<p>第 23 回福 井県教育研 究所研究発 表会</p>	<p>「『言葉の学び』を自己評価する力」を、高等学校国語科における学習指導の中で育てるためには、どのような条件が必要か、授業実践をもとに考察を行った。</p>
<p>「自ら学び、自ら考える力を高める高校国語科学習指導」</p>		<p>2007 年 8 月</p>	<p>福井県高等 学校教育研 究大会</p>	<p>自ら学び、自ら考える力を高めるためには、探究的な学習活動を組織した上で、思考のプロセスを言語化し、交流することが有効であることを述べた。</p>

『話すこと・聞くこと』領域における評価の研究」	2008年2月	国立教育政策研究所 平成18・19年度学力の把握に関する研究 指定校事業 研究発表会	「話す・聞く」領域の評価においては、発表などのパフォーマンスを総括的に評価するだけではなく、ノートに残された学習の蓄積にもとづき、学習過程を形成的に評価を行うことが重要であることを述べた。
『読解リテラシー』を育てる国語科学習指導」	2008年8月	京都大学 E-forum2008	読解リテラシーを育てるためには、パフォーマンス課題を用いた課題解決型グループ学習を組織し、自分の考えを繰り返し言語化させることが有効であることを明らかにした。
「PISA型『読解力』を育てる、論理的文章の指導」	2008年8月	全国国語教育研究大会	「自分の考え」を「言語化」し、他者と「交流」を行わせるために発表者が行った具体的な手だてを明らかにした上で、生徒の具体的なノート記述に基づいて、授業実践の成果と課題に対する検証を行った。
「論理的発信力UPには、まず論理的受信力を！！」	2008年9月	21世紀英語教育シンポジウム	論理的に話したり書いたりする力を育むためには、まず論理的に読解したり、論理的に聞いたりする力の育成が重要であることを、事例にもとづいて述べた。
高等学校小説単元における本質的な問い	2012年8月	京都大学 E-forum2012	「読むこと自体が問題解決である」という読み観にもとづき、読みに関する本質的な問いだけではなく、学習活動に関する本質的な問いも組織化することが重要であることを述べた。
「課題設定能力の育成を目指す指導と評価の実際」	2016年8月	京都大学大学院教育学研究科 E-forum2016	京都大学教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM 主催の「全国スクールリーダー育成研修」のシンポジウム、「高等学校におけるカリキュラム改善——探究的な学習を中心に」に招聘され、講演した。課題設定能力の育成を目指すための指導と評価のあり方について提案した。
“Professional Learning Communities drive curriculum innovation: Longitudinal action research on the school organization of Wakasa Senior High School”	2019年8月	World Education Research Association	World Education Research Association 2019(世界教育学会)において、若狭高校の事例に基づき、福井大学木村教授とともに、プロフェッショナルラーニングコミュニティがどの世に育まれていくかについての発表を英語で行った。

<p>AAR cycle Fosters Agency</p> <p>コロナ渦における組織的な授業づくり</p> <p>「願いと狙いの明確化から始める、プロジェクト型探究カリキュラムの構築——目標と指導と評価の一体化を図るための手立て」</p>	<p>2019年9月</p> <p>2020年7月</p> <p>2020年12月</p>	<p>G20 2019 JAPAN Summit related event on Education</p> <p>福井大学教職大学院</p> <p>京都大学大学院教育学研究科 E-forum 研修会</p>	<p>文部科学省 2019 年 G20 サミット教育関連イベント「21 世紀の教育政策～ Society5.0 時代における人材育成～」G20 2019 JAPAN Summit related event on Education において、AAR サイクルが、生徒の Agency を高めることに関する発表を、G20 国の政策担当者等に対して英語で行った。(参加者 200 名)</p> <p>福井大学教職大学院実践研究福井ラウンドテーブルにて、コロナ渦における ICT を活用した若狭高校における組織的な授業づくりについての発表を、オンラインで行った。(参加者 30 名)</p> <p>京都大学教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM 主催の「全国スクールリーダー育成研修」のシンポジウム、「総合的な探究の時間」を探究するシンポジウム「探究的な学習のカリキュラムと指導」に招聘され、オンラインで講演した。(参加者 50 名)</p>
<p>(講演・助言・招聘授業)</p> <p>学習者の「問い」を生み出す授業デザイン</p> <p>私たちは高校生を、どのような大人に育てたいのか?～深く学び、確かな力を育む 授業デザインを通して～</p> <p>叙述内容を豊かにする指導のあり方</p> <p>小説を「深く」「楽しく」読むには</p>	<p>2014年12月</p> <p>2015年8月</p> <p>2015年11月</p> <p>2015年12月</p>	<p>國學院大學 文学科</p> <p>石川県教育委員会 探究スキル育成プロジェクト</p> <p>京都府京丹後市立間人小学校</p> <p>石川県教育委員会</p>	<p>高校教員を志望する文学部生、大学院生対象に、「学習者の『問い』を生み出す授業デザイン」を組織するには、どういう視点が必要かについて述べた。</p> <p>石川県立立高校「いしかわ探究スキル育成プロジェクト」合同研修会(参加者 50 名 180 分)講師として、アクティブ・ラーニングの重要性が叫ばれる中、這い回る経験主義の二の舞にならないよう、深く学び、確かな力を育む授業デザインを組織するには、どうすれば良いか、様々な探究学習の事例を踏まえて述べた。</p> <p>小学五年生に対する「書く力」を育む授業に対する助言と、書き方ではなく叙述の内容を豊かにするための指導のあり方について述べた。</p> <p>「石川県 探究スキル育成プロジェクト 合同セミナー」(於: 野々市明倫高校体育館)にて、石川県の生徒さん 192 名に対し、参観者約 200 名の中で、小説読解の授業を行った。</p>

深く読む力（高次の思考力）の指導と評価 ～私たちは生徒をどのような大人に育てたいのか～	2016年 1月	立命館付属 校国語科授 業研究会	深く読む力、高次の思考力とはどのような力かを措定した上で、その指導と評価はいかにあるべきかについて述べた。
異文化交流はどうあるべきか～自身のものの見方考え方に気づく～	2016年 7月	石川県立小 松高校	「いしかわ探究スキル育成プロジェクト」の一環として、石川県立小松高校2年生（40名）に授業を行い、その後の授業研究会にて講師を務めた。
小説・評論を「深く」「楽しく」読むには	2016年 7月	開星中学・ 高等学校	島根県 開星中学・高等学校の夏期セミナーにおいて、中学3年生と、高校2・3年（各クラス35名）に対し、小説・評論の授業を行い、その後の授業研究会にて講師を務めた。
私たちは高校生を、どのような大人に育てたいのか？～生きて働く質の高い学力を育む 授業デザインを通して～	2016年 7月	滋賀県教育 委員会	「滋賀県 学びの変革プロジェクト」の滋賀県高等学校研究主任悉皆研修講師として、講演を務めた。目標と指導と評価の一体化を図る際には、特に目標を生徒の現実から生み出していくことが重要であることなど、を中心に提案した。（参加者70名 210分）
高次の学力の育成を目指した授業デザイン	2016年 8月	産業能率大 学	産業能率大学主催の第10回キャリア教育推進フォーラムにて、全国から集まった50名の教員を対象に、模擬授業を行った。
私たちは草津東高校の生徒たちを、どのような大人に育てたいのか？	2016年 10月	滋賀県立草 津東高校	「滋賀県 学びの変革プロジェクト」のモデル校である滋賀県立草津東高校（参加者70名）にて、アクティブ・ラーニングを促す授業のあり方について、90分の講義・演習を行った。
育てたい力を明確にした探究的学習の評価	2016年 12月	京都市教育 委員会	「京都市 高校教育実践講座」の講師として、若狭高校における実践を交えながら、探究的な学習における指導と評価のあり方について、80名の参加者に対し、210分の講義・演習を行った。
私たちは三校の生徒たちを、どのような大人に育てたいのか？	2017年 1月	滋賀県立彦 根西高校・ 彦根翔陽高 校・彦根翔 西館高校	三高校の合同研修会の講師として、生徒の現実から授業の目標を生み出していくことが重要であることや、評価の目的と方について90分間の講義・演習を行った。（参加者70名）

新共通テストを見据えた単元の開発	2017年7月	沖縄県教育委員会	沖縄県教育委員会進学力グレードアップ推進事業にて、沖縄県教員に対し、3時間・2単元の模擬授業を行った。(参加者30名)
現代文を「深く」「楽しく」読むには	2017年7月	開星中学・高等学校	島根県 開星中学・高等学校の夏期セミナーにおいて、中学3年生と、高校2・3年(各クラス35名)に対し、現代文の授業を行い、その後の授業研究会にて講師を務めた。
新共通テストを見据えた単元の開発	2017年8月	日本教育新聞・株式会社ナガセ	神戸・大宮・千葉の3会場において、AIに関するビデオ・書籍に基づく教材を用いて、書く能力・読む能力を総合的に育むことを目標とした模擬授業を行い、質疑応答を受けた。(総参加数300名)
育てたい力を明確にした授業デザインとその評価の実際	2017年8月	産業能率大学	「授業力向上フォーラム」(大阪会場・熊本会場)にて、全国から集まった教員を対象に、模擬授業等を行った。(総参加数200名)
高等学校国語科における『指導と評価の一体化』の可能性と課題	2017年8月	滋賀県教育委員会	国語科にて育むべき資質能力とその評価について、ブルームタキソノミーをふまえた単元構成案を提示し、模擬授業を行った(参加者50名)
新共通テストを見据えた単元の開発	2017年8月	石川県教育委員会	AIに関するビデオ・書籍に基づく教材を用いて、書く能力・読む能力を総合的に育むことを目標とした模擬授業を行い、質疑応答を受けた。(参加者20名)
なぜ我々は学ぶのか	2017年11月	世界授業研究学会(WALS)	International Conference 2017のSchool Visitプログラムにて世界から集まる研究者に対し、授業(3年1組 古典B 単元「なぜ我々は学ぶのか」)を公開し研究協議にて質疑を受けた。
高次の学力の育成を目指した授業デザインとその評価の実際	2018年8月	産業能率大学	「教科指導力向上研究会」(札幌会場)「授業力向上フォーラム」(仙台会場)にて、全国から集まった約100名の教員を対象に、模擬授業等を行った。
新教科「現代の国語」にて、高次の国語学力を育むためには	2018年12月	京都高大連携研究協議会	新教科「現代の国語」において、高次の国語学力を育むには、どのような単元をデザインすべきか、特に、①どんな力を、②どんな教材・活動で培い、③どう評価するのかについて講演後模擬授業を行った。(参加者50名)

探究的な学びを通してキャリア意識を育むには	2019年 2月	沖縄県高等学校進路指導研究会	キャリア意識の涵養に向けて、総合的な探究の時間をどのようにデザインすべきかについて、講演を行った。(参加者 30名)
探究の課題をどのように克服していくか	2019年 2月	産業能率大学	探究の課題をどのように克服していくかに関して、目標・評価、課題設定、学校組織のあり方についての講演を行った。(参加者 60名)
育てたい力を明確にした授業デザインとその評価の実際	2019年 3月	岩手県立大船渡高校	2年生生徒に対する模擬授業を行った上で、全校教職員に対し、全ての教科に通ずる単元デザインのあり方について、講演を行った。(参加者 50名)
新教科「現代の国語」にて、高次の国語学力を育むためには	2019年 3月	長崎県授業デザイン研究会	長崎県授業デザイン研究会(佐世保市)にて、国語科の授業のありかたについての講演と先生方を生徒に見立てた模擬授業を行った。(参加者 30名)
新教科「現代の国語」にて、高次の国語学力を育むためには	2019年 5月	香川県高等学校教育研究会	国語部会春季研究会において、新教科「現代の国語」において、高次の国語学力を育むには、どのような単元をデザインすべきか、特に、①どんな力を、②どんな教材・活動で培い、③どう評価するのかについて講演後模擬授業を行った。(参加者 60名)
探究的な学習を推進する組織のあり方	2019年 6月	内田洋行	New Education Expo2019において、若狭高校の事例に基づき、探究的な学習を推進する組織のあり方について、講演を行った。(参加者 60名)
英語科教育にも通ずる、目標と指導と評価のあり方	2019年 7月	ベネッセ	英語科教員に対し、国語科教育の事例に基づき、目標・評価、課題設定等単元デザインのあり方についての講演を行った。(参加者 30名)
教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善	2019年 7月	文部科学省	アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット 2019において、若狭高校国語科・地歴科・家庭科における 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善について、発表した。(参加者 150名)
主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善	2019年 7月	滋賀県高等学校国語教育研究会	夏季研究大会において、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善のあり方についての講演後、模擬授業を行った(参加者 50名)

「新学習指導要領をふまえた国語学力の育成」	2020年 8月	産業能率大 学	「授業力向上フォーラム」(青森会場)にて、全国から集まった約100名の教員を対象に、模擬授業等を行った。
「総合的な探究の時間を楽しくするために」	2020年 10月	岐阜聖徳学 園高校	岐阜聖徳学園高校全教職員に対して、総合的な探究の時間を充実するための組織的な取り組みについて提案を行った。
「総合的な探究の時間を中心とした探究的な学習について」	2022年 2月	広島市立舟 入高校	全校教職員対象研修会に招聘され、総合的な探究の時間における、指導と評価のデザインについて述べた。 (参加者50名)
「高等学校国語科の単元作りを考え合う一目標・評価を意識して」	2022年 5月	福岡県高等 学校国語部 会	福岡県の高校国語科教諭に対して、実践に基づき、単元目標の精緻化の重要性について述べた上で、多様な評価のあり方について述べた。(参加者80名)
「量的データに基づく『評価』の意義」—研究的実践者の立場から—	2022年 6月	横浜国立大 学・株式会 社内田洋行	横浜国立大学・株式会社内田洋行・福井県立若狭高等学校のデータにもとづく「探究」の評価に関する共同研究成果を述べた。(参加者100名)
「目標と指導と評価の一体化を図る高校国語科カリキュラムの具体的提案」	2022年 8月	産業能率大 学	現代の国語・言語文化・古典探究・論理国語・文学国語の単元作りについて、模擬授業を通して講演した。 (参加者50名)
「高等学校国語科の単元作りを考え合う」—評価のあり方を問いながら—	2022年 8月	滋賀県高等 学校国語教 育研究会	滋賀県の高校国語科教諭に対して、自身の実践に基づき、単元目標の精緻化の重要性について述べた上で、多様な評価のあり方について述べた。(参加者50名)
「楽しくなければ探究じゃない」	2022年 8月	産業能率大 学	「探究的な学習」カリキュラムの開発プロセスについて、藤島高校・若狭高校の事例に基づき述べた。(参加者30名)

(その他)

◎福井県教育委員会より、「授業名人」に任命された。(2017年3月27日)

○八田幸恵(2015)『教室における読みのカリキュラム設計』日本標準 第Ⅱ部(pp65～131)に、単元『「ここ」論文を作成しよう』の実践が紹介された。

○八田幸恵(2016)「アクティブでコミュニケーション的な読みの行為を育てる「真正の評価」と「パフォーマンス評価」」教育科学国語教育 2016年2月号 明治図書 pp14～15に、単元「ここ論文を作成しよう」の実践が紹介された。

○西岡加名恵(2016)『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価～アクティブ・ラーニングをどう充実させるか～』明治書院 (pp39～41)に、単元「自分の考えを提案し、発表しよう」の実践が紹介された。

○八田幸恵(2017)「学校と教室における読みのカリキュラム・デザイン」教育科学国語教育 2017年4月号 明治図書 pp111～112に、授業デザインが紹介された。